

製品名: PTN13 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16656**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	273kDa

抗原情報

遺伝子名	PTPN13
別名	PNP1 PTP1E PTPL1
遺伝子 ID	5783.0
SwissProt ID	Q12923
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

背景

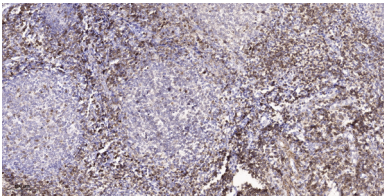
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、タンパク質チロシンホスファターゼ (PTP) ファミリーのメンバーです。PTP は、細胞の成長、分化、有糸分裂周期、および腫瘍形成など、様々な細胞プロセスを制御するシグナル伝達分子です。この PTP は大きな細

胞内タンパク質で、C末端に触媒 PTP ドメインを持ち、2つの主要な構造ドメイン（5つの PDZ ドメインを含む領域と、細胞膜および細胞骨格要素に結合する FERM ドメイン）を有しています。この PTP は、PDZ ドメインを介して Fas 受容体および IκBα と相互作用し、脱リン酸化することが確認されています。これは、PTP が Fas を介したプログラム細胞死において役割を果たしていることを示唆しています。また、この PTP は GTPase 活性化タンパク質とも相互作用することが示されており、Rho シグナル伝達経路の調節因子として機能する可能性があります。異なるタンパク質をコードする 4 つの選択的スプライシング転写バリエーション。触媒活性：タンパク質チロシンリン酸 + H₂O = タンパク質チロシン + リン酸。機能：FAS 誘導性アポトーシスおよび NGFR を介したプロアポトーシスシグナル伝達を負に制御する。配列注意：コンタミネーション配列。ポリ A 配列の可能性あり。類似性：タンパク質チロシンホスファターゼファミリーに属する。非受容体クラスのサブファミリー。類似性:1 つの FERM ドメインを含みます。類似性:1 つの KIND ドメインを含みます。類似性:1 つのチロシンタンパク質ホスファターゼドメインを含みます。類似性:3 つの PDZ (DHR) ドメインを含みます。類似性:4 つの PDZ (DHR) ドメインを含みます。類似性:5 つの PDZ (DHR) ドメインを含みます。サブユニット:2 番目の PDZ ドメインを介して TRIP6 および TNFRSF6 (Fas 受容体) と相互作用します。3 番目の PDZ ドメインを介して NGFR の C 末端 SVP モチーフと相互作用します。2 番目と 4 番目の PDZ ドメインを介して PDLIM4 の LIM ドメインと相互作用します。1 番目の PDZ ドメインを介して PLEKHA1 および PLEKHA2 に結合します。BRD7 および ARHGAP29 と相互作用する。組織特異性：肝臓と骨格筋を除くほとんどの組織に存在する。肺、腎臓、胎児脳に最も多く存在する。、

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。2、抗体を 1:200 に希釈した（4°で一晩）。3、二次抗体を 1:200 に希釈した（室温、45分）。